



楽々亭通信

第14号
令和3年10月1日号

発行：NPO法人没イチの会・京都

9月の楽々亭は

開催できませんでした

『法事』

本願寺派布教使

安堂芳雅

こんにちは、人生二度目の「東京オリンピック」が終わりました。

安堂です。

皆さんは、昭和の「東京オリンピック」がいつ開催されたか、覚えておられますか？

昭和三十九年の十月十日からです。同年七月生まれの私は、東洋の魔女やマラソンの円谷幸吉選手活躍を、おっぱいを飲みながら、訳も分からずながめていたことでしょうか。

それから約半世紀。同じだけ年齢を重ねて迎えた今回のオリンピック



は、若い選手達の奮闘に、ただひたすら手が痛くなるほどの拍手をおくったのでした。

【ご法事は誰のため？】

先日、地方紙で「法事にまつわる基礎あれこれ」と題した記事を読みました。葬儀会社の営業部長さんが書かれたものでした。

それによると（以下は引用）

初七日から忌明けまでの間に法事を行うのは「追善の法要」です。亡くなった方が極楽浄土に向けて旅をされている姿をイメージしてもらおうとわかりやすいのかもしれない。亡くなった方は、七

日ごとに、関所を通るよう前世の行いを判定されます。その時、遺族が現世で法要を行えば、うまく通過できる後押しになるとされます。

（中略）

“関所を通過する後押し”ですから、法事の日取りは命日より後にならないことが大切です。

とのことでした。

どうやら一般には、法事とは、『亡き人のため』におこなうもので、そうすることで善行を積み、その功德を『亡き人にふりむける』ことで、少しでもよい世界に生まれてもらおうという考え方のようです。

しかし、浄土真宗の考え方はそうではありません。亡き人は阿弥陀さまのおすくいによって、すでにお浄土に生まれ仏さまになっておられます。ですからもうすでに、こちらから

善行をふりむける存在ではないわけです。

ご法事は、あくまで参拝者一人ひとりが、『私のため』につとめるもの。

亡き人をご縁として、

『私』が阿弥陀さまの「あなたを必ず浄土に生まれさせ（往生）、仏にする（成仏）」という願いに遇い、その願いを受け止める機会をいただくのが、浄土真宗のご法事です。

「こんど、親の法事でもらうんやけど、参ってもらえませんか」とご依頼を受けたことがあります。

「法事をする」でも「法事がある」でもなく、亡くなられた人から「私が法事をもらおう」

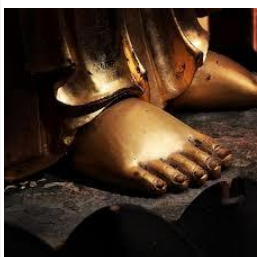
よいご縁をいただきました。

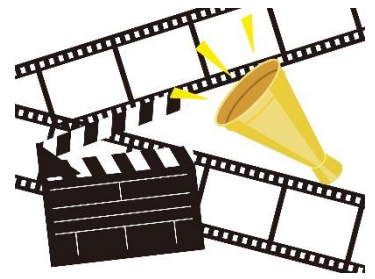
●さて、少し間があいてしまいました。が、「仏さまのお姿の三十二の特徴」です。

今月は七番目「足趺高満相」（そくふこうまんそう）をご紹介します。

「足趺」（そくふ）とは、足の甲のことです。仏さまの足の甲は、「高満」、つまり亀の背のように高く盛り上がっているそうです。普段はなかなか、おみ足まで見ることがないので、本堂にいつて確認してみました。

確かに蓮華の台座にお立ちの足趺（甲）は、亀の背のように盛り上がっていて、ついつい「阿弥陀さまはずーっとお立ち姿だからなあ。足もパンパンになったはる」、と心配したのですが、いやいや、お経によりますと、この盛り上がりは、沸き立つお慈悲の力をあらわしているそうです。





松竹のプロデューサーとして

その6

「ある女優との一夜」

私の作文が後先になりわかりにくいところもありますが、思い付いたまま書いて居りますのでよろしくご理解ください。

東京に異動し、三井マンションに住んでから、種々なることが有りました。会社的には真面目に勤めておりましたが、帰宅すると、数多くの女優に訪問され、食事に誘われたり、マンションの一階にある喫茶店に呼ばれたり、種々の話の聞き役になっておりました。

それがスポーツ紙に夜遅くま

で女優と会って怪しい雰囲気だとか、女優と出来ているとか色々大きなスペースで書かれました。会社内でも評判になり、会長、社長等から注意をされましたが、成績も良かったので笑いながら叱られた程度でした。

私は宣伝部、映画部、テレビ部、ビデオ事業部等を担当しておりましたので、小生の件を書いた新聞に出入り禁止を致しました。その後各新聞社も大人しくなり、映画も順調に成績を挙げて行きました。

その時丁度テレビ東京から年末、年始に毎年放送している12時間テレビを作つて欲しいとの依頼がありました。そして松竹映画部の俳優総動員をして作りました。

山田五十鈴、歌舞伎の片岡仁左衛門、名取裕子、山本洋子、藤田まこと、その他有名な俳優で豪華な作品になりました。年末年始に放送され、20%の視聴率を稼ぎ、民放6局のトップになりました。1月3日テレビ東京の社長、親会社の日経新聞のお偉方が松竹本社にお礼で見

えになり、私も呼ばれて金一封を頂きました。松竹の会長も、社長も大いに喜んで頂きました。マンションに帰宅しますと、相変わらず3〜4人の暇そうな奥様が遊びに來られました。

「もうご主人がお帰りの時間ではないですか？」と言っても「主人は今日は出張ですの」「主人は役人で今日は徹夜ですの」

独身生活の私にとって悪い虫が起きそうな気配になり、よからぬことを種々相談したりもしましたが、人数が多すぎて話に相槌を打つのが精一杯でした。

ところが或夜、有名女優が訪ねてきました。早速1階の喫茶室で話を聞いてやりましたが、十一時で喫茶室は閉店、その後の話は私の部屋で聞くことになり、その日は土曜日でしたので、私も気が楽になり深夜まで話を聞くことになり、そして夜が明けました。

今回はこれ以上お話できませんが、皆さんで種々ご想像ください。

櫻井洋三

楽々亭第13回 10月の予定

10月12日(火)

西京区役所洛西支所会議室

午後1時30分～3時30分

8月に開催した場所です。

表玄関口から入って下さい。



楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。